

(バナー写真は地図でお願いします)

足尾クイズ ~テレインマスターになろう~

こんにちは、作図責任者の遠藤です。大会ももう2週間前になりますが、皆様はどのような印象を抱かれましたか？

さて、復習編ということで私からはテレインに関するクイズを作ってみました。(コース解説はもう少しかかるらしいので、しばらくお待ちください)。

ぜひ解いてみてください：<https://forms.gle/6hiCXJQGnWQxujgD7>

解説は下にあります。

解説編

Q1. 第45回東大OLK大会のテレイン名として正しいものはどれでしょう？

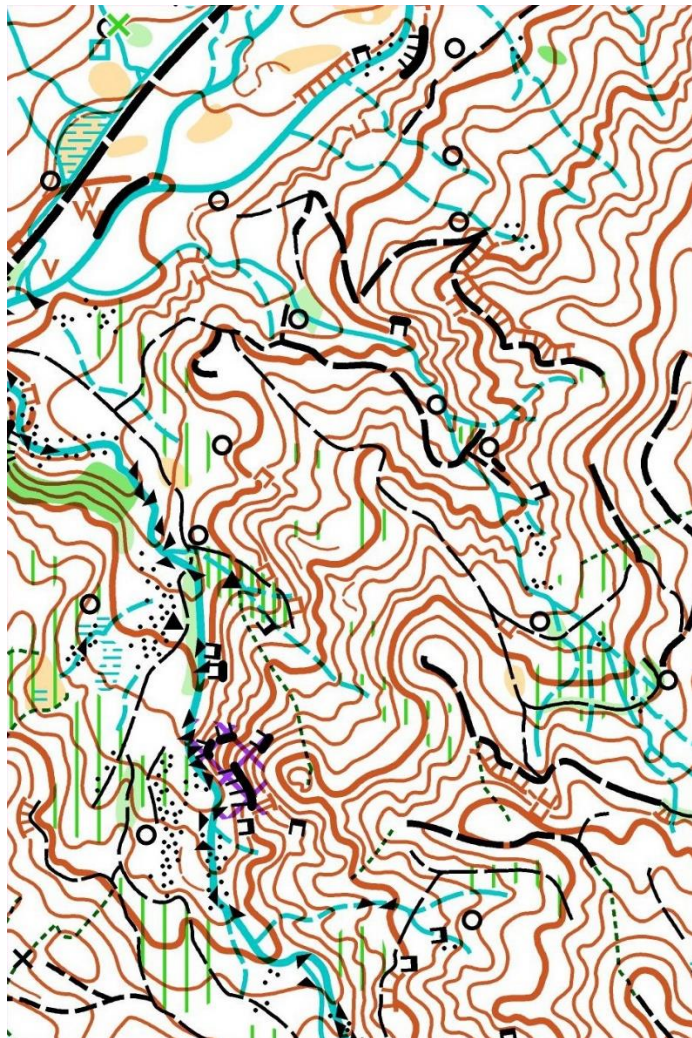
A. 「こぶが原」 (運営者正解率 87%)

足尾勝雲山(あしおしょううんさん)はバス降車場からやや西に行った所にある標高1322.2mの山で前回の第42回大会のテレイン名になっています。

今回のテレイン、特に都沢より北側は「こぶが原」と呼ばれ、修験者の多く修行する舞台でした。古くは9世紀、勝道上人が日光を開山する前に古峯の地で修行したと言われています。足尾、粕尾などの地名に共通する「尾」の字も修験道に由来しているそうです。テレイン内にも古道が残されており(今回は一部崩れた土塁で表記してみました)、北側には異様な地蔵様がいらっしゃいます。

Q2.『足尾勝雲山』／『古峯ヶ原』には多くの美しい炭焼き窯があります。以下のうち、炭焼き窯の分布として正しいものはどれでしょう？（運営者正解率 100%）

A.



A は崖の一部、C は細い湿地の端です。

古峯ヶ原の地図には 212 個の炭焼き窯跡が書かれています。不明瞭で地図にとられなかったもの、逆に完璧で危険なため岩穴として書かれているものもあるため、実際はもっと多いです。

足尾に多数の状態のよい炭焼き窯跡が残されているのは、足尾銅山と関係があるかもしれません。銅山が賑わっていたころ、狭い市街地には最大 2 万人もの人が住んでいました。この人口を支えるためには木炭を含む多くの生活物資が必要であり、昭和中期まで周辺の山中では炭が焼かれ続けたはずです。

炭焼き窯跡は輸送の都合なのか、主に尾根の終端部分に残っていることが多いです。そのことに気づけると簡単になるレグもあったかもしれません。他のトレインでもそうなのでしょうか？

Q3. テレイン内には多くの岩や礫地が存在します。岩(204)の数はどれくらいでしょうか？（運営者正解率 40%）

A. 約 500 個



足尾には岩石が多く、テレイン内には 204 岩だけで、553 個あります。岩石地で覆われた、とんでもない沢を見た人もいることでしょう。といっても、足尾は結構昔の花崗岩からできた隆起準平原なので、あまりとげとげしておらず綺麗に苔むしていますね。運営者の中には、暇のあまりあの苔を効率的に集め苔玉を作る方法を開発した者がいるとか…。といって油断して苔の上に立っているとまれに苔ごと滑り落ちるらしいので、次に足尾を調査する人がいれば、注意してください。そういえば、川の中にキラキラ光るものがあるらしいですよ。

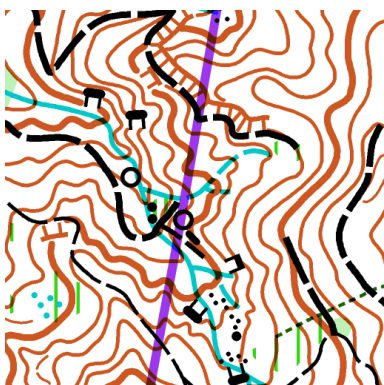
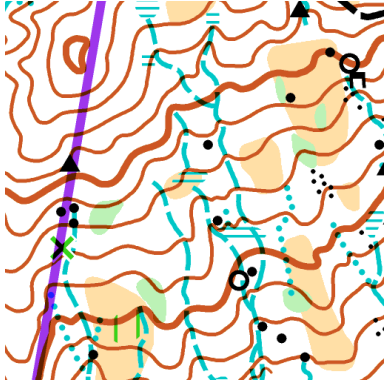
Q4. 『古峯ヶ原』 の藪の比率はどれくらいでしょうか？

A. A:BCD=15:1（運営者正解率 20%）

数字は少し意外ですね。ちなみに、足尾には鹿が多数生息しており、これと冷涼湿潤な気候がオリエンテーリングに快適な植生を作り出しているのではないかと思います。

Q5. 以下の3つの図は南北方向のロングレックである ME6→7 周辺の地図を切り取ったものです。正しい順に並び変えてください。（運営者正解率 100%）

A. 北→C→A→B→南



解けましたか？

A はかの都沢です。調査で何十日も入って、やっとジャブジャブ渡った方が早いことに気付きました。

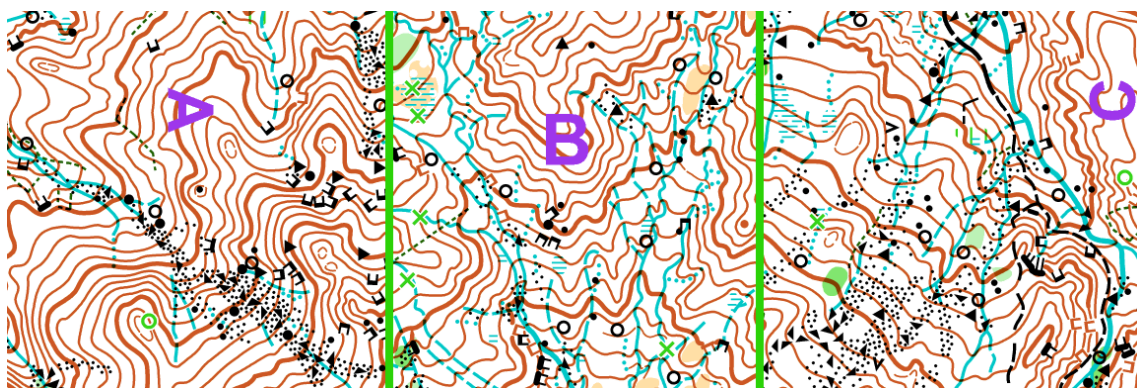
B の範囲、なんだかんだいってゴツイですよ。

C は新規範囲です。この範囲や A 付近に点在するラフオープンは、おそらく開拓団の跡だと思います。1949 年、満洲開拓団の引き揚げ者はトレイン南西に広がる平らなエリアに目をつけ、酪農を営むべく入植してきました。勝雲山の南西なんですが、横根山開拓団と呼

ばれています。一時期は分校もあつたりしたそうです。ところが高度経済成長期に政府の政策によりレジャー施設が多く建てられ、この山奥にも前日光レジャーランド開発計画が持ち上がります。そのため開拓団はヤマハ発動機などに土地を売って出て行ってしまい、奇しくも足尾銅山閉山と同じ1974年には解散してしまいます。開発計画はハイランドロッジ以外立ち消えになってしまい、後には自然に帰りつつある廃墟や畑の跡だけが残されています。

Q6. 以下の3つの図は、トレイン内からランダムに切り取ったものです。北が上を向いているものはどれでしょう？（運営者正解率 100%）

A. Bのみ



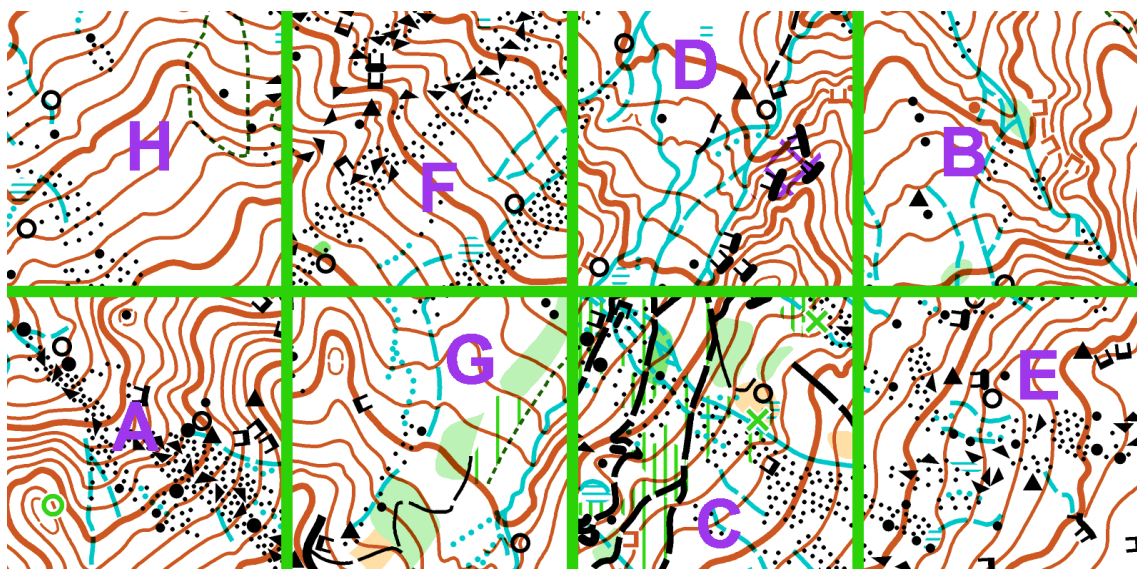
地図をぐるぐる回すオリエンティアにとっては、意外と苦手な問題な気がします。

トレインの南側は北斜面、北側は南斜面なので、Bが正解です。北側範囲の方が暖かいらしいですよ。

ちなみに、Aは東が上、Cは西が上になっています。

Q7. 並び替え問題

A. 西→H→F→D→B→A→G→C→E→東



旧図範囲についての問題です。

一番西は H ですね。この範囲は(遭難防止テープの更に西ですが)本当に何もありません。OLK の調査では範囲に調査者の名前を振るのですが、平らな平田範囲と呼ばれていました。(OB 向き：今大会では一次調査者と範囲名が全く一致していません。)

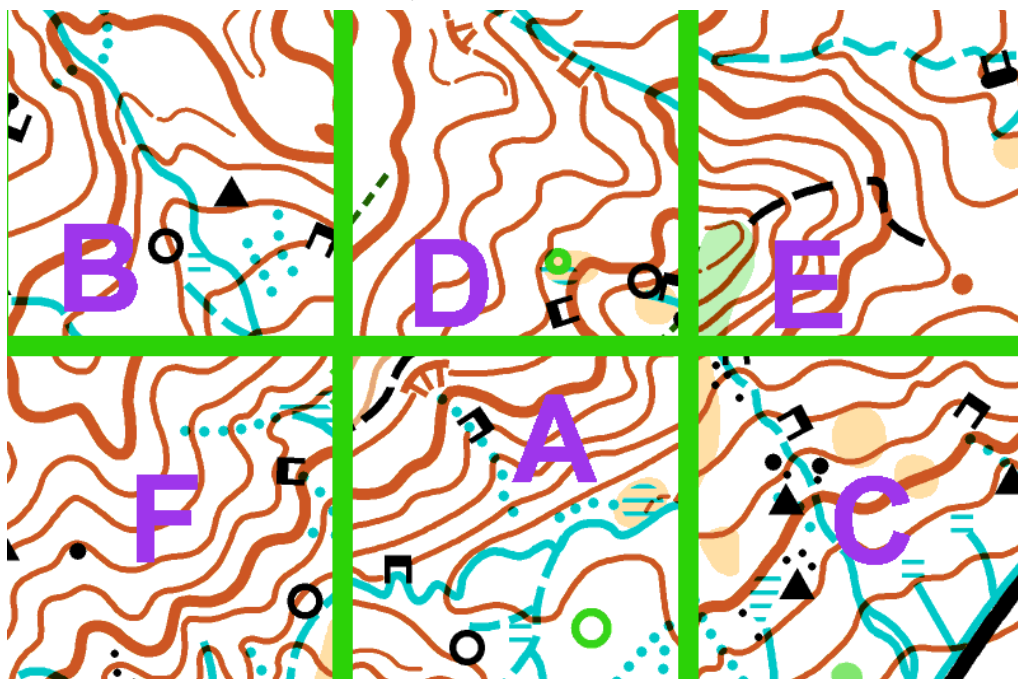
そのあとが F ですね。トレイン内で斜面がこのような形をしているのはここ周辺だけな気がします。なんだかんだ礫地が多いんですよ。D はスタートから少し下っていった範囲です。ランク 6 が見えますね。地理院地図にはこのランク 6 が勝雲山まで続いていることになっており、それをルートにしたトレラン大会の運営は大変そうでした。地理院地図の破線は信じてはいけません。

B は ME の 1 ポが置かれていたエリアですね。A のとんでもないエリアまで調査をした人、礫地大臣をした SatoR はとても偉いと思います。(礫地大臣とは、トレイン内で基準を統一するために地図内の礫地・岩石地を全て確認する人のことです。岩大臣、藪大臣など様々な大臣がいます。人海戦術で調査をしている OLK 大会ならではの工程です。) G のエリアは今回はあまり使われませんでした。

C, E は今大会で用いなかった県道より東側のエリアです。このエリアは西向き斜面となっており、東端にトレイン最高峰である方塞山(1388m)があります。C のエリアには日本一走りにくいというランク 4 があります(ランク 4 じゃないだろ)。間伐があるという噂があるので、これらの切り開きが拡大しているかもしれません。E はジブリエリアです。1 年の頃行って雪まみれで怖かった記憶があるので、暖かい時期に行ってみたいものです。

Q8. 並び替え問題

A. 西→B→D→E→F→A→C→東



一番西は B です。上の曖昧な地形のところ、市有林でとても綺麗な植林です。次の D は東向きなのが面白いです。

E には 2 つの山塊のうち西側のものが写っています。位置関係が難しいのですが、F 北側の尾根は 2 つの山塊の間の平らなエリアから生えてきています。

最北部が A です。北側範囲は本当に水系・湿地が多く、調査では正しく書き切るのが大変でした。小さな湿地から水が湧き出し水系になるのが定番です。そういえば、北側は南側に比して更に巨大な倒木の根が多いんですよ。本当になぜなのでしょう。

一番東が C です。このエリアを競技中に通られましたか？実は地図に書かれていない段々構造があります。畑の跡なんですか？

Q9. 足尾にブンブン丸は何匹いるのでしょうか？

A. どれでもない(もっとたくさんいる)

私の知らない問題が追加されてますね…。ブンブン丸とは足尾にたくさんいる、アブのことです。寒い時期はこいつがいなくて快適です。ちなみに 52 日間の調査中に、蜂は 2 回だけ目撃されています。蜂に見えるやつはだいたいブンブン丸です。

ここまでトレインについて色々書いてきましたが、明治期にあったと噂の牧場など、まだまだ分からないことがあるので、ご存知の方はぜひ教えてください。

それでは良い地図に恵まれたオリエンを！